

## 第2次千葉市文化芸術振興計画 1次評価シート（案）

基本施策名	基本施策1_文化芸術に親しむ市民の裾野を「広げる」		
	(1)多様な文化芸術イベントの開催		
事業名	メディア芸術振興事業		
実施主体	実行委員会	(名称) メディア芸術振興事業実行委員会	
市との関わり	主催	負担金	
市担当課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課	(連絡先) 245-5961(内)90-2527	

事業概要	開始年度	平成25年度			
	事業費	(予算) 市： 2,000	その他： 0	(決算) 市： 1,999	その他： 150
	目的	子どもや若者を主な対象に、新しい文化芸術の分野であるメディア芸術に関する人材育成、普及啓発のためのイベントやワークショップ等を実施することで、個性豊かな新しい千葉文化の創造を図る。			
	内容	千葉市と千葉市にゆかりのあるクリエイター3名で構成された千葉市メディア芸術振興事業実行委員会が実施する事業。平成25年度から事業を開始し、平成27年度までは主に体験型のイベントを実施してきたが、平成28年度は小学生高学年を対象としたワークショップを実施した。			
	目標	参加者数60名（当初予定していたイベント内容の変更により、年次報告書に記載の目標とは異なる）		(昨年度)来場者数3,000名	
	ねらい	<p>(対象)小学校4年生以上</p> <p>(求める効果)</p> <p>平成25年から平成27年度までは主に普及啓発をメインとした体験型のイベントを実施していたが、平成28年度は人材育成のあしかりとして、プロの講師のもと、身近なものを題材に子ども達に自らの視点で考え、表現してもらうワークショップを実施した。</p> <p>まずは、このワークショップに参加することで、メディア芸術への敷居をなくし、参加後も普段の生活の中で気軽に実践したいと感じてもらうことがねらい。</p> <p>(アプローチ方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段の学校のカリキュラムに無い内容のワークショップを、あえて小学校の跡地で、かつ、普段接点の無い第一線で活躍するアーティストやデザイナーなどのクリエイターを先生とし、初めて会った同世代の仲間達と一緒に授業を受けることによって、ワークショップ実施場所に来た瞬間から日常とは違った視点を持ってもらえるような環境面からのアプローチを行った。</li> <li>・ ワorkshopで教わったことを普段の生活の中でも気軽に取り込むことができるよう、日常にあるものを題材に取り入れたり、自らの感覚を生かし、体を動かして実践するものを中心とする授業内容とした。</li> </ul>			
	実績	<p>開催日程：平成29年2月19日（日）10:00～18:00</p> <p>会場：はまのわ（旧高浜第二小学校）</p> <p>対象：小学校4年生以上</p> <p>応募者数：153名 参加者数：75名（定員60名のところ応募者が多かったため増員）</p> <p>実施内容：</p> <p>①音を感じてみよう、気持ちを音にしてみよう（宮内優里先生 作曲家）</p> <p>②自分のカラダをつかってコマ撮り映像をつくってみよう（岡崎智弘先生 デザイナー）</p> <p>③動きに合わせて光る コスチュームをつくってみよう（西千葉工作室）</p>			
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市政だより</li> <li>■ HP</li> <li>■ ポスター・チラシ</li> <li>■ フェイスブック・ツイッター</li> <li>■ その他（ 記者投げ込み ）</li> </ul>			

【評価指標】 4：妥当、3：ほぼ妥当、2：工夫により改善、1：見直し

1 基本施策との適合	(1) 妥当性	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・メディア芸術という新しい分野を題材にして、子どもや若者を対象に人材育成や普及活動を実施することで、個性豊かな新しい千葉文化の創造を図ることが目的であることから、基本施策1文化芸術に親しむ市民の裾野を広げる (1)②メディア芸術などの新しい分野と取り入れた事業の推進に沿っており、目的設定は妥当である。
	(2) 達成度	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・メディア芸術という新しい表現を用いながらも、身近にある題材（ビニール袋、ペットボトルなどの日用品）や自ら実践しやすい内容（体を使って表現するコマドリ）を取り入れたことで、メディア芸術の楽しさに気づききっかけを与え、文化芸術に親しむ市民の裾野を広げることができたと考える。 ・当日は「ななめな学校」に参加していない人も自由に体験できる作品展示場を設けたことから、より多くの人に気軽に鑑賞し楽しめる場を提供できたと考える。
	(3) 波及	<input checked="" type="checkbox"/>	(評価の理由) ・子どもたちが単にイベントで参加体験するのではなく、ワークショップ形式で学び、今後も日常生活でメディア芸術に取り組むきっかけを与える内容とした。【基本施策2(1)への波及】 ・上記のねらいを実現するため、会場として小学校の跡地を活用したことが結果として文化施設以外の活用につながった。【基本施策3(1)への波及】
2 戦略的な視点・基本姿勢との適合	(1) 市民主体	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・アンケートでは、多くの参加者が授業で学んだことを自分でも身近なもので「やってみたい、できればやってみたい」と回答。これは、新しい文化芸術の分野への敷居をなくし、市民の日常的な活動や行動に結びついたものと考えられる。 ・本事業は、市民主体の実行委員会により企画運営されており、また、当日の運営にはボランティアも多数参加していることから、運営面においても市民主体の要素が強い事業である。
	(2) 子ども・若者	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・企画の対象者を小学校高学年に設定して実施。実際の参加者も小学校4年生を中心とした狙い通りの年齢層であった。 ・授業を講義形式ではなく、子どもたちが自らの感覚を生かして考え、実践できるワークショップ形式としたことで、想像力を育む機会の創出に繋がったものと思われる。
	(3) 領域の広がり	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・授業を通じて、自らの動き方によって様々な面白さを引き出すことのできるコマ撮りや、日用品を使い自分の感じたものを音として自由に表現する手法を学んだことで、普段の生活においても文化芸術を創造体験することは可能であることを受講者に気づいてもらうことができた。よって、文化芸術の領域を広げ、新たな魅力ある文化芸術の創造に寄与することができたと考えられる。また、授業中に、ある題材に対して、他の参加者がどう考えるか意見を言い合う場も多く設けたことから、様々な価値観に触れるきっかけも創出できたと考えられる。
		(評価に関連する数値等) アンケート結果 「それぞれの授業で学んだことを自分でも身近なものでやってみたいか」はい48% できればやってみたい44%	
		(評価に関連する数値等) アンケート結果：参加学年割合 4年生61.3% 5年生24% 6年生14.7%	
		(評価に関連する数値等) アンケート自由記述 問3(1)8.16.24.26他 (2)36.39.53.63他 問4 1.2.19.21.36.38.39.47.51他	

3	事業のねらい	(1) 妥当性	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア芸術は漫画、アニメーション、映画、コンピューター、電子機器等を利用した幅広い芸術であることから、誰もが実践できる可能性を秘めている。今回のワークショップはプロのメディア芸術アーティストの育成ではないが、日常生活においてメディア芸術を実践できる可能性を参加した子ども達に提示できた点が、第2次千葉市文化振興計画の戦略的な視点（市民主体・子ども若者）に沿っており、市の文化振興の観点から妥当である。</li> <li>・今回は人材育成のあしがかりとなることをねらいとして事業を実施し、参加者の満足度も高かったものの、次年度以降に向けてどのようにステップアップを図っていくかについては今後の検討課題である。</li> </ul>
		(評価に関連する数値等) アンケート結果：感想「楽しかった」92%、「これからも「ななめな学校」に参加したいと思うか」はい65%・できれば参加したい32%、「それぞれの授業で学んだことを自分でも身近なものでやってみたいか」はい48%、できればやってみたい44%	
3	事業のねらい	(2) アプローチ	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果から、学校での実施や身近な題材でのアプローチは妥当であったといえる。</li> <li>・西千葉工作室の授業については、動きによってLEDライトの光り方や色が変わり、自分の身体に身に着けて音楽に合わせて身体を動かすことで、様々な表現方法に触れることを目的としていたが、個々の表現を発表する時間があまり取れず、作品の制作がメインの印象を残してしまった部分が今後改善すべき点と考える。</li> <li>・小学校4年生と小学6年生の力量の差に見合った授業展開が難しく、参加者の大半に楽しんでもらえたものの、6年生には簡単すぎたところも見受けられたため、次回は授業内容と対象者の設定が課題となる。</li> </ul>
		(評価に関連する数値等) アンケート結果：自由記述 問3(1)8.16.24.26他 (2)36.39.53.63他 問4 1.2.19.21.36.38.39.47.51他	
4	市民との関わり	(1) 満足度	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の92%が授業に参加して「楽しかった」と回答。また、参加者の92%が授業で学んだことを自分でも身近なもので「やってみたい、できればやってみたい」と回答し、「家にあるもので様々な音を出してみたい」「コマ撮りを友達とまたやってみたい」など今後の活動に関する発展的な記述も多数見られた。</li> <li>・参加対象者を小学校4年生以上と設定したが、「授業の内容が小学校3・4年生位の内容だった」という回答も見られ、一部の参加者にとっては簡単すぎる内容だったと思われるため、次回は授業内容と対象者の設定が課題となる。</li> <li>・運営側の実行委員会のメンバーからは、次回も同様の企画を実施したいとの意見があった。</li> </ul>
		(評価に関連する数値等) アンケート結果：自由記述 問4 59.68 問6 59	
		(2) 周知度	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は対象が小学生、会場が美浜区であったため、美浜区の小学校を中心にチラシを配布した狙い通りに、小学校に配布したチラシを見て応募した参加者が全体の約90%、美浜区在住の小学生の参加が全体の約50%であった。</li> <li>・定員60名を上回る応募があり、事業に興味関心を示した市民が多かったと言える。</li> <li>・参加者アンケートでは、「チラシが目立ち参加意欲がそそられた」との意見があった。</li> </ul>
(評価に関連する数値等) 応募153名・参加者数75名（定員60名のところ応募者が多かったため増員）			アンケート結果：自由記述 問6 73

5	(1) 地域活性化	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・授業の内容が各自実施するものではなく、みんなで考えながら取り組む内容のものが多く、また参加者も同世代であったため、授業内での参加者間の交流は生まれたものとする。 ・今回は会場が美浜区であったため、必然的に美浜区居住の参加者が多い結果となったが、今後は美浜区以外での実施も検討する必要がある。 ・講師として地域に根差したアーティストを活用すれば、地域の文化芸術の活力向上につなぐことができた。
		(評価に関連する数値等)	
効果	(2) 費用対効果	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・応募者153名、参加者数75名(定員60名のところ応募者が多かったため増員) ・参加者の92%が授業に参加して「楽しかった」と回答。また、参加者の92%が授業で学んだことを自分でも身近なもので「やってみたい、できればやってみたい」と回答し、いずれも高い数値である。 ・また、小学4年生と小学6年生の力量の差に見合った授業展開が難しく、参加者の大半に楽しんでもらえたものの、6年生の一部の参加者にとっては内容が簡単すぎた面も見受けられたため、どこにポイントを絞るか(対象者か、授業内容か)が課題となる。
		(評価に関連する数値等) アンケート結果:感想「楽しかった」92%、「これからも「ななめな学校」に参加したいと思うか」はい65%・できれば参加したい32%、「それぞれの授業で学んだことを自分でも身近なものでやってみたいか」はい48%、できればやってみたい44%	